

SAWAYAKA さわやか

米の収穫風景（上今泉）



特集1

新農業委員・農地利用最適化推進委員紹介

..... p 2～4

地区別の農業委員・農地利用最適化推進委員名簿..... p 5

特集2 令和7年度農業者等との意見交換会..... p 6

令和8年度農業委員会活動方針並びに事業計画..... p 7

おれらの組織紹介「佐々木地区」・インフォメーション・編集後記... p 8

2026.

9月号

特集1

新農業委員・農地利用最適化推進委員 を紹介します。

農地利用の最適化の推進に努めてまいります

法律の改正から4期目を迎え、新たに農業委員19名が任命され、農地利用最適化推進委員22名が委嘱されました。任期は令和8年7月20日から令和11年7月19日までの3年間となります。

就任のごあいさつ

新発田市農業委員会 会長 相 沢 久 明



本年7月21日に執り行われた新発田市長招集の互選会において第26期新発田市農業委員会会長の任を拝命し身の引き締まる思いです。浅学菲才ではございますが、専心務めさせていただきますので宜しくお願い申し上げます。

新発田市は「安心、安全な食料生産都市新発田」の実現に向けて全国に先駆けて有機米生産を進めるオーガニックビレッジ宣言や、市内産米の海外輸出販売など素晴らしい施策が展開され農業経営基盤の強化が図られています。

しかしながら、農業従事者の減少や高齢化、離農、耕作放棄地の増加など多くの問題が浮き彫りになり、食料生産や自然環境などに大きな不安を抱えることも事実です。

そんな中、当市においては各地域に農業生産法人等がそれぞれの地域農業を支え守りながら素晴らしい農業経営を展開してくれていることは心強い限りです。

農業委員会組織が誕生して75年、この間「人、農地、農村を守ること」を使命として活動してきました。新たにスタートいたします第26期新発田市農業委員会は農業委員、農地利用最適化推進委員が一致団結して、しっかりと各地域に根差し、地域の農業者の皆様の支えとして務めさせていただきます。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げましてあいさつといたします。

役 職	氏 名	役 職	氏 名
会 長	相沢 久明	会長職務代理者	加藤 雅之
農地調整部会長	笠原 昭栄	農地調整副部会長	加藤 康弘 布施 義隆
農政推進部会長	新保 忠司	農政推進副部会長	渋谷 淳 千代 勝一
情報活動部会長	若杉智代子	情報活動副部会長	小野 敏 横野 寛

農業委員



氏名
所属部会
住所



若杉 智代子
【情報活動部会】
五十公野



石黒 俊一
【農政推進部会】
五十公野



小野 敏
【情報活動部会】
則清



武藤 直樹
【情報活動部会】
新栄町



高橋 明美
【農地調整部会】
下中山



星野 幸雄
【農地調整部会】
宮古木



渋谷 淳
【農政推進部会】
上三光



本間 徳英
【農政推進部会】
上羽津



湯浅 生夫
【農地調整部会】
松岡



赤塚 恵子
【農政推進部会】
乙次



加藤 雅之
【農政推進部会】
二ツ堂



小池 信義
【農地調整部会】
小坂



阿部 國範
【情報活動部会】
乙次



中村 正人
【情報活動部会】
上石川



加藤 康弘
【農地調整部会】
向中条



村田 研悦
【農政推進部会】
新保小路



相沢 久明
【情報活動部会】
湖南



笠原 昭栄
【農地調整部会】
長島



中野 佑一
【農政推進部会】
真野原

農地利用最適化 推進委員



石井 正志
【農政推進部会】
飯島



川崎 義廣
【農地調整部会】
佐々木



川瀬 いずみ
【農地調整部会】
中田町



新保 忠司
【農政推進部会】
本町



五十嵐 勝雄
【情報活動部会】
浦



清野 敏昭
【情報活動部会】
上赤谷



津村 賢
【農地調整部会】
米倉



菅原 昭榮
【農政推進部会】
下内竹



齋藤 康之
【農政推進部会】
菅谷



若月 洋明
【情報活動部会】
小戸



仲山 与志男
【農地調整部会】
上楠川



石井 正人
【情報活動部会】
大友



千代 勝一
【農政推進部会】
荒川



坂野井 良
【農地調整部会】
稻荷岡



横野 寛
【情報活動部会】
天王



渡邊 秀弥
【農地調整部会】
本田



林 康浩
【農政推進部会】
池ノ端



布施 義隆
【農地調整部会】
麓



新納 正明
【農地調整部会】
早道場



宮島 隆行
【農政推進部会】
中俵



大滝 正子
【情報活動部会】
下山田



鈴木 廣栄
【情報活動部会】
真野原



地区別の農業委員・ 農地利用最適化推進委員名簿

地区	氏 名	委員区分	担 当 地 域	地区	氏 名	委員区分	担 当 地 域
新発田地区	武藤 直樹	農業委員	新米町、富塚町、住吉町、舟入町、舟入、弓越、富塚、奥山、大米町、御幸町、中曽根町、中曽根	豊浦地区	阿部 國範	農業委員	中ノ目新田、吉浦、大沢、竹俣万代、加治万代、万代
	新保 忠司	推進委員	高浜、板敷、新富町、東新町、本町、東塚ノ目、豊町1丁目、豊町4丁目、諏訪町、西名柄、島湯		小池 信義	農業委員	太斉、藤掛、久保、佐々川、小坂、赤橋
	川瀬いづみ	推進委員	道賀、長畑、桑ノ口、下名柄、中谷内、中田町、中田、小舟町、小舟渡、緑町、城北町		加藤 雅之	農業委員	上端、蛇塚、荒町上区、荒町下区、切梅、二ツ堂、竹ヶ花
佐々木地区	小野 敏	農業委員	則清、則清新田、西宮内、北蓑口、西蓑口		赤塚 恵子	農業委員	動木橋、戸板沢、乙次、下飯塚
	川崎 義廣	推進委員	佐々木、上中沢、曾根、日渡		林 康浩	推進委員	池ノ端、横掘、大伝本村、大伝新道、下中ノ目
	石井 正志	推進委員	飯島甲・乙、下興野、太田新田、飯島新田、鳥穴、砂山		渡邊 秀弥	推進委員	下本田、岡屋敷、八万、月岡、月岡温泉、興野、上本田、滝沢、中之通
五十公野・米倉・赤谷地区	石黒 俊一	農業委員	五十公野(小路、杉原、外城、上町、下町、七軒町、山王)、金谷、豊町2丁目、豊町3丁目	紫雲寺地区	横野 寛	推進委員	天王、三ツ樹、福島、乗廻
	菅原 昭榮	推進委員	江口、丑首、上内竹、下内竹、五十公野(天ノ原)、山崎、小見、古寺、上新保、下新保		中野 佑一	農業委員	藤塚浜、真野原外、真野原、真中、古田、下中沢、富島、福岡
	若杉智代子	農業委員	山内、中々山		坂野井 良	推進委員	稲荷岡、関井、真野原外、真野原、住吉、南成田、中島、大中島、高島、片桐、湖南
	津村 賢	推進委員	米倉、大槻		笠原 昭米	農業委員	米子、宮古、元郷、小川、長島、中野、長者館、真野原外、真野代
	清野 敏昭	推進委員	滝谷、上赤谷、滝谷新田		鈴木 廣米	推進委員	二ツ山、人橋、河岸場、真野原外、真野原
松浦地区	湯浅 生夫	農業委員	小友、浦新田、浦、法正橋、松岡	加治・加治川地区	相沢 久明	農業委員	湖南、上今泉、川口、関妻、稲荷、野中、下城、吉田、古橋、小島、塚田、下山田、住田、箱岩、平山、横岡、西浦、下西山
	五十嵐勝雄	推進委員	大崎、六日町、八幡、八幡新田		大滝 正子	推進委員	
	千代 勝一	推進委員	瑞波、田家、荒川(新荒川)、上中山(見城、本村、増川、中居)		村田 研悦	農業委員	金塚、岡島、戸野港、大野、相馬、中俵、金山、貝塚、寺尾、境、小国谷、貝屋、下坂町、下小中山、金沢
川東地区	本間 徳英	農業委員	上大友、下大友、上羽津、下羽津、本間新田、長峰、西姫田、石喜、敦賀、下高関、下岡田、上岡田		宮島 隆行	推進委員	
	石井 正人	推進委員			加藤 康弘	農業委員	向中条、高田、押廻、川尻、古川、二本木、釜杭、高山寺、草荷、メ切(早道場)、小倉、早道場、上小松、下小松、三日市、館野小路、新保小路、茗荷谷、金津、上館、新屋敷、下中、下今泉
	渋谷 淳	農業委員	田貝、虎丸、上三光、下三光、上楠川、下楠川、東姫田、南橋		新納 正明	推進委員	
	仲山与志男	推進委員					
	星野 幸雄	農業委員					
	若月 洋明	推進委員					
菅谷地区	高橋 明美	農業委員	上荒沢、満足、熊出、丸市、下中山、横山				
	齋藤 康之	推進委員	菅谷、小出、繁山、上寺内、下寺内				
	中村 正人	農業委員	下石川、中川、丸山、滝、上石川				
	布施 義隆	推進委員	メ切(蔵光)、東宮内、中妻、黒岩、麓、上中江、下中江、北中江、中倉、蔵光				

詳細は農業委員会事務局へお問い合わせください。

TEL (0254) 33-3119

※ご相談はお近くの農業委員または農地利用最適化推進委員へお気軽にご相談ください。

特集2

令和7年度 農業者等との意見交換会

農業を取り巻く課題として、後継者育成の必要性が高まっています。農業に従事する若者を増やすためには何が必要かを考える機会として、令和8年1月29日（木）に新発田市地域交流センターにて講演会と農業者等との意見交換会を開催しました。

第1部 講演会

講演会では、新潟食料農業大学の青山浩子教授を講師に迎え、「若者から選ばれる魅力ある農業とは」と題して講演いただきました。

～なぜ就農する若者が少ないのか～

大学卒業後に農業へ就職する学生は少なく、その理由の一つとして「就農までの道筋が見えにくいこと」が挙げられます。その課題を解決する手段として、インターンシップの重要性が紹介されました。

～インターンシップの導入効果～

就農を希望する若者は「自分に農業が合っているのか」「長く働き続けられるのか」といった不安を抱えています。一方、受け入れる農業者側にも「継続して働いてもらえるだろうか」という不安があります。

ある派遣会社では、実際の農作業を体験しながら自分に合った環境かどうかを確認することができ、もし自分に合わないと感じた場合は派遣会社が次のインターンシップ先になる法人などを探す、本人に合う受け入れ先が見つかるまで伴走していく取組みをおこなっています。こうした取組みは農業者にとっても就農希望者との相互理解につながるメリットがあります。

新発田市には稲作をはじめ、園芸、果樹、畜産など多様な農業があり、自分に合った分野を見つけやすく、インターンシップには最適な地域であると提言されました。

～若者に選ばれる農業とは～

若い世代が農業を職業として選ぶためには、「やりがい」と「収益性」の両立が重要なポイントとなっています。収益が安定することで、仕事へのやりがいや将来への安心感にもつながり、職業として「農業」を選ぶ選択肢の1つになりえるのではないのでしょうか。

また、選ばれる農業経営の特徴として、○販売額が平均より高い ○補助金への依存が少ない ○減価償却費が低い ○データを活用した経営 ○必要な投資を適切に行う ○人との繋がりやネットワークを大切にしている、ことなどが紹介されました。

さらに、現役農業者が持つ経験や技術、情報は、これから農業を目指す若者にとって大きな財産です。そうした情報を共有し、交流できる場を設けることが、若者の就農を後押しする第一歩になると話されました。



第2部 意見交換会

農業従事者と新潟食料農業大学学生を交えて意見交換をし、出された意見を取りまとめて市へ要望を提出しました。

要望 市が農業をしてみたい人と農業法人等の就農への仲介役となり、農業を志す学生などのインターンシップを受け入れ、「農業の魅力」を発信する取組をお願いしたい。

回答 関係機関と連携し、「農業支援ワンストップ窓口」を設置している。窓口では、就農相談から研修先農家のあっせんまで一元的に対応できる体制を整えている。さらに、就農後の安定経営を見据え、関係機関によるサポートチームを編成し、きめ細やかな伴走型支援体制を構築している。

農業の魅力発信については、農業者や学生との意見交換会への参加や農業関連学校への出前授業等を通じて市の支援策を情報発信するよう努めている。引き続き、より効果的な情報提供の在り方を検討・実践していく。

要望 農地の集積、集約化、規模拡大にもつなげる補助制度等の情報提供と就農者同士の情報共有のため「農業者間のコネクション」構築策をお願いしたい。

回答 各種農業関連補助制度の情報提供については、農業者へ迅速かつ的確に情報共有できるよう、関係機関と連携した体制を整えている。農業者間のコネクション構築については、加治川地区の「加治川農業法人会」が会員間における情報交換の場を設けているなどの取組を契機として、農業者間の横のつながりや地域を越えた連携がさらに広がる環境づくりに向け、農業委員会、JA、関係団体等と連携し、持続可能な地域農業を実現するために積極的に支援していく。



令和8年度新発田市農業委員会活動方針並びに事業計画

令和8年度の活動方針並びに事業計画が、4月30日開催の農業委員会総会において承認されました。今年度は下記の方針等に基づいて活動を続けていきます。

1. 活動方針

農業委員会が所掌する事務に関する活動方針は次による。

- ・農地法等に基づく農地の売買・貸借の許可、農地転用の許可等については、公正に審議する。
- ・農地の利用状況調査を通じ、可能な限り農地所有者等の立会を求め、農地利用の適正化や遊休農地の発生防止・解消に努める。
- ・地域の話し合いに積極的に参加して農地所有者の意向把握に努め、担い手等への農地の集約、担い手の育成・確保等、地域計画のブラッシュアップ・実現に向けて取り組む。
- ・法人化等の農業経営の合理化に関し、必要な支援を行う。
- ・農業委員会活動や農業に関する情報を広報誌等を通じて発信する。
- ・農業者との意見交換会等を通じて農業者の声をくみ上げ、関係行政機関に提出する。

なお、農業委員会の委員は特別職の公務員として研鑽に励み、法令を遵守し高い倫理観をもって公平・公正に職務を遂行する。また、各種研修会には必ず参加する。

2. 事業計画

活動方針に基づいて以下の会議で審議するとともに、各部会においては策定した年間活動計画に基づいて活動を展開する。

会議の開催

定例総会 月1回開催
調査委員会 月1回（定例総会前）開催

役員会
各部会

必要に応じて開催
必要に応じて開催

農地調整部会

農地制度の適正な執行のため、「農地等の利用の最適化の推進に関する指針」に基づき、遊休農地の発生防止・解消活動や無断転用並びに農地の適正な利用状況の把握及び指導を主体とした活動を展開する。

○利用状況調査（農地パトロール）

- ・遊休農地の現地調査及び当該農地権利者への利用意向調査等の実施
- ・相続税または贈与税の納税猶予の適用を受けている特例農地の現地調査の実施
- ・無断転用地の調査及び当該農地権利者への指導の実施
- ・新規取得農地の管理状況の調査及び不適切管理農地の権利者への指導の実施
- ・農地への不法投棄の監視

○農業振興地域整備に関する法律の適正な運用

- ・農用地区域内にある農業用施設や底面コンクリート張り農地等の現地調査の実施

農政推進部会

就業の場、多様な担い手の確保に向け、新規就農者の支援や地域計画の見直しなど農業関係機関・団体と連携した活動を主体とする。また、農業者の声を反映した行政への提言を行う。

○担い手、認定農業者等の育成と確保

- ・市内農業者と市・県及び農業関係機関・団体等との意見交換会の開催

○農業委員会の公正な活動及び円滑化に向けた各種研修会の開催

- ・農業委員研修会
- ・農業委員会視察研修事業

情報活動部会

農地行政に係る関係法令業務の適正な執行のため、各種情報を収集し提供することを主体にしつつ農業委員会活動を市民にPRする。

○目に見える農業委員会活動の発信

- ・広報さわやかの発行（年2回）
- ・ホームページ等の様々なメディアを通じた情報発信

○農業者の活躍事例の紹介

- ・起業化支援・推進のための先進事例等の情報提供
- ・新規就農者等の紹介や女性農業者の活躍事例の発信



定例総会の様子



広報誌の発行

まわりの組織紹介



今回は佐々木地区の則清集落にある「農事組合法人ミムラ」さんへおじゃましました。
(担当：苅谷 恒夫 委員)

地域に必要とされる組織に

今回は、佐々木地区を中心に活動する「農事組合法人ミムラ（代表理事・蜂谷誠基さん）」を紹介しします。
農事組合法人ミムラは、平成26年佐々木地区北東部に設立されました。
蜂谷代表ほか社員4名、アルバイト4

名で活動しています。規模は水稻を中心に71haとなっています。今年度から基盤整備事業が開始され、圃場の大区画化や農地集積が望まれます。また、それに伴って、大型乾燥調整施設の建設に着手し、作業効率の大幅なアップとドローンの活用で、生産コストの削減をはかり、安定した経営を行うことで、将来的には100haを目標とされる組織になれるように努力をしていきたくれ希望を話してくれました。

編・集・後・記

●長年JA職員や農業委員を務め、日本農業新聞や全国農業新聞、今ではスマホなどから幅広く農業情報を得ていますが、全国農業新聞のコラムで忘れられない人がいます。令和4年に86歳で亡くなりましたが、佐賀県のミカンとコメ作りの農民作家・山下惣一さんです。地産地消の重要性を訴え、新潟で一献酌み交わした際の「百姓しながら百姓のことを書いてきた。大袈裟なことではない」という言葉は記憶の一言でした。

●映画「百姓の百の声」の上映会では、農と食について学びました。百姓は負けない、そして強い。続いてきた農業を未来に引き継ぐためにも、化学物質に頼らず自然的な栽培を昔ながらの農法、発想の転換により、農村を維持しています。種子を互いに交換しながら在来品種を育て、食へつなげる力を持っています。

●今年も5月に、伊勢神宮神田御田植え奉仕に行ってきました。岡山、三重、新潟の3県男女総勢75名で、白装束姿で横一列でのイセヒカリの田植えは見栄えががあります。神宮には神田、野菜畑、果実畑、そして二見浜には御塩田があり、神宮での御料品は自給されています。昭和36年に宮内庁からの依頼によって始まったこの活動に、私はまだ7年の経験です。なぜそこまで行って田植えと聞かれますが、私は日本で一番大きなボランティア、奉仕をしたかっただけだと今後も続けていくつもりです。広報誌「さわやか」は次号からスタッフが交代します。応援よろしくお願いします。（高木 辰夫 委員）

インフォメーション

令和8年度事務局人事異動（令和8年4月1日付け）

～よろしくお願ひいたします～

局長 渡邊 誠一（農林水産課から）
農地調整係長 松田 朋子（社会福祉課から）
主任 斎藤正太郎（環境衛生課から）

～お世話になりました～

局長 森田 正亮（契約検査課へ）
農地調整係長 中村 典子（人権啓発課課長補佐へ）
主任 涌井 裕美（加治川支所へ）

農業者年金に加入しましょう

農業者の方は、国民年金の上乗せの公的な年金「農業者年金」に加入して安心で豊かな老後を！

詳しくは農業者年金基金HPへ
<https://www.nounen.go.jp>



広報誌「さわやか」は、各支所、コミュニティセンター、道の駅加治川などに設置しています。